



開人会通信

Vol. 43 / 2018年7月発行

プランニング開

仙台市青葉区北山1-5-2 2 /TEL/FAX022-276-8840
URL <http://p-kai.com>
e-mail kai2@alpha.ocn.ne.jp

汐見稔幸先生の本「こども・保育・人間」を代表の新田新一郎が責任編集しました。本の中ではアトリエの子どもたちの元気な写真がいっぱいです。



アトリエ自遊楽校がイキイキしているワケ

子ども自身がイキイキと主体的に活動する表現創造空間

夏のある日、やっているのは絵の具で「窓に絵を描く」(写真上)。「そんなことやつてもいいの?おもしろそう!」と子どもたちの好奇心は全開!画用紙にいきなり絵を描くのは緊張するけど、窓は大丈夫!だって失敗したら消して何度も描けるんだよ。窓を海の中に見立てて魚を描いたり、雨を降らして力エネルギーを描いたり、思い思いで楽しんだ後は、窓拭き掃除だって遊びになります!窓はあつという間にピツカピカになりました!

2歳児でも「この絵の具の赤は
絵の具屋さんがつくった赤だよね。
色を混せて自分の赤をつくって
ね。」などと、「自分で選んで」、「自
分で決める」ことをします。子ども
が自分から働きかけ、アウトプッ
トした表現は、どれも素晴らしい

保育学セミナーの主催者プランニング開が運営する表現創造空間「アトリエ自遊楽校」は、宮城県仙台市にある2歳～小学6年生までの200名の子どもたちが所属する表現創造空間です。

脳の9割は、4、5歳までに成長します。この幼稚期に五感を通して直接体験をすることで脳は活性化されます。アトリエでは、五感を通して本物に出会い、感じる、考える、感動する、イメージする、そしてそれを自分なりに表現します。絵の具で描いたり、いろいろな素材に出会ってつくったり、お料理をしたり、全身でたくさん遊んで「自分らしさ」をつくっていきます。

保育学セミナーの主催者プラン
ニング開が運営する表現創造空間
「アトリエ自遊楽校」は、宮城県仙
台市にある2歳～小学6年生まで
の200名の子どもたちが所属す
る表現創造空間です。



ハケで大きな紙に描く。ダイナミックな体験

直接体験・情動体験の重要性

本物に出会う・感じる・感動する・ドキドキワクワクをインプット

イキイキした表現には、イキイキした体験を！表現とは、自分の中から外に自分を出し表すこと。でもいきなり「絵を描きなさい」とか「表現しなさい」と言つてもムリですね。そうです。**アウトプットのためにはインプットが大切。**アトリエでは、実際にいろいろものに触れたり、出会つたりして**直接体験**をして**五感**を通して**感じる**、そして**感動する情動体験**を大切にしています。

毎回子どもたちに出会わせたいものや伝えたいテーマやねらいを深く考えています。

サラサラからドロドロまで様々な感触を楽しむ「粉から粘土をつくる」。暖色や寒色によつて温度を変えて「小麦絵の具でフィンガーペインティング」など、「感覚そのものを楽しむ造形遊び」。

「大きな紙にハケで描く」、「建物全部の床に長ーい紙をつなげる」など、「ダイナミックな遊び」。「ピヨコ」「一二ワトリ」「ヒツジ」「ブタ」「ロバ」「ハリネズミ」など、「生き物に出会う体験」。

たけのこや桜餅など素材そのものの味を知る「旬を食べる」。粉から生地を作る「ピザ」「うどん」など「料理は五感を使う絶好の体験」。3歳から包丁も使います。スタッフは、「おもしろそう！やつてみたい！」と、子どもたちが「その気になる」動機づけとして今日のモデルを登場させる工夫や、環境を整える準備に労力を惜しません。だから、できた作品たちの感動が伝わってきます。



粉から「粘土をつくる」



料理は五感をフルに使います



においを嗅いで新聞に包まれた果物を当てる



表現するまでの過程を大切にする

気づく・工夫する・発見する・失敗する・困難を乗り越える



まずは触って！アトリエ名物ブラックBOX
中のあつた！」「鳥のくちばしみたいに硬いよ！」なんでかな？「小さいエビとかカニとか食べるから！」
子どもたちは、自分たちで気づき発見していきます。じゃ絵に描いてみよう。何色の紙にしよう？何色で描く？どんな力にしようかな？自分だけの工夫をしてね。子どもたちが自分であれこれ試行錯誤し、工夫する余地をたくさん残しておきます。スタッフはお世話しそうぎず一人ひとりの過程を見守り、認めほめます。



今日のアトリエ、はじめに登場したのはアトリ

エ名物「ブラックボックス」。手を入れてよくく触つて、どんな感じがするかな？「ヌルヌル」「べトベト」「冷たい」「やわらかい」「ツブツブがある」と子どもたち。中に入っていたのは「イカ」でした。今度はよく観察してみよう。目はどこ？おなかはどこ？足は何本？すると「2本だけ長い足がある！」「それって手なんじゃない？」

だつて。口はどこ？「足の中にはいた！」「鳥のくちばしみたいに硬いよ！」なんでかな？「小さいエビとかカニとか食べるから！」
子どもたちは、自分たちで気づき発見していきます。じゃ絵に描いてみよう。何色の紙にしよう？何色で描く？どんな力にしようかな？自分だけの工夫をしてね。子どもたちが自分であれこれ試行錯誤し、工夫する余地をたくさん残しておきます。スタッフはお世話しそうぎず一人ひとりの過程を見守り、認めほめます。



だんだん自分がつくられていく

「自分なり」から「自分だけ」の表現へ



いろいろ描いたりつくりしたりしているけど何をつくっているかって「自分」をつくっているんだよ。どんな感じがした?何色が好き?どれでやる?自分で選んで自分で決めてね。失敗は成功の素。まずはやってみよう!

全身で楽しむ子どもたち。見えない力がたくさん育っています。

こうした体験の積み重ねから、だんだんと想像力、思考力、表現力、感性が育っていき「自分なり」の表現から「自分だけ」の表現へと広がりそれは「人格の形成」にもつながっています。この難しいことを幼児にも分かりやすく次のように伝えています。

自己選択、自己決定をしながら表現する過程での工夫や発見を認め、ほめられた子どもたちは、充実感や達成感を味わい、自信もついて表現することが大好きになります。「やつてみたい」「おもしろそう」という好奇心や、「これどうなってるんだい?」という探究心も育ち、いろいろなものに興味を持つて自分から働きかけていくようになります。



あのイタリアのレッジヨエミリアからもアトリエ自遊楽校の視察に来てくださいました。

園の研修旅行としてアトリエ見学、研修を行うことも可能ですが。興味を持たれた方は、ぜひお問い合わせください。

e-mail kai2@alpha.ocn.ne.jp